桑山が、60年の歴史の集大成として無限の可能性あるデザインや創造性

新鮮な視点や重要課題などを伝える

総合ジュエリーメーカーの㈱桑山は、IJTにて創業60年の歴史を込めた豊富なマテリアルでクリエイティビティを刺激する新たなジュエリーの表現に挑んだ。

「The Box of Curiosities 好奇心の箱」をテーマに、取引先の商品開発の着想やバリエーションを拡げ、個性や独自性をより豊かにする“マテリアルボックス”をブース全体で表現。同社の歴史の中で開発された膨大な数のパーツを整理し、さらに地金の色や表面加工のバリエーションを展開し、パーツコレクションとして体系化した集大成を披露。さらに、同じカットボールや同じモチーフのプレスパーツでもサイズが変化するだけで大きく表情を変えるところなどを、商品クリエイターの創造性とマテリアルボックスの表現力を掛け合わせ、時には、無限のデザインの可能性があることを伝えていた。

また、新作提案のコーナーでは新たな技術を盛り込んだ新作コレクションや新作マシンチェーン、カットリングの新たな提案など多数の新製品も発表した。

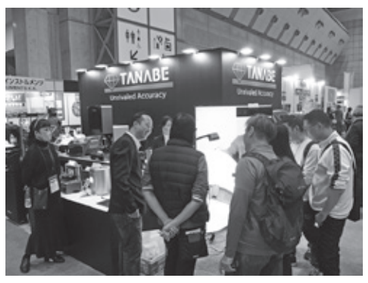
外側の壁面では、技能五輪全国大会の貴金属装身具部門に委員を派遣している同社は、同大会を紹介するとともに「何よりも手加工が基本であるという考えのもと、西洋・東洋のジュエリー製法を次世代へしっかり継承していくことも業界にとって重要な課題だと考える」と、その大切さを伝えている。

産学協同プロジェクトでは、ヒコ・みづのジュエリーカレッジと共に、将来のジュエリー業界を担う人材の育成と新鮮な視点での商品開発を目指し、テーマに沿って、学生がジュエリーをデザインし、制作していく過程で、桑山のデザイナーと職人がコンセプト・デザイン・つくりに関するアドバイスを行うという取り組みを進めている。そこからは学生らしい斬新な発想と魅力ある作品の数々が生み出されている。

宝石専用スキャナーに注目集まる

高額宝石を取り扱うリスクを回避

田邊研電



鋳造機メーカーとして宝飾加工機器の様々な技術・商品開発を推し進める㈱田邊研電（東京都世田谷区、田邊晴己社長）は、これまでリスクとなる高額の宝石の預かりや移動を回避できる宝石専用の3Dスキャナーを1月のIJTで初披露し、注目を浴びた。

初登場の宝石用3Dスキャナー「Scanox CAD」は、宝石専用に開発され、3DCADでの石枠制作に役立つのはもちろんのこと、従来必要であったサーフェーサーをスプレーする下処理などが不要となった上、安全に素早く正確なSTLデータを作成することができることから、実演を見ていた来場者からは驚きの声が上がっていた。

事前の告知で実機の展示を知り、この新型スキャナーの見学を目的にIJTへ来た人たちも多くいて、大いに賑わっていたのは、単純に3DCADでの石枠制作に役立てようとしているだけではなく、高額な宝石に触ることなく、工房へ移動させるリスクもなく、正確な宝石の3Dデータの色々な場所での共有が可能となり、安全にスピーディーに作業を進められると話題になっていた。

田邊研電の担当者は「預かりリスクがなくなります。高額な宝石の実物をやり取りすることなく枠の制作を依頼できるほか、宝石の正確な数値を3Dデータにスキャンするメリットはたくさん考えられます」と説明しており、実機の見学者からも「安全に素早くスキャンできることで、ルース販売の際のオプションとして3Dデータを付属させるなど様々なサービスの展開が考えられる」と多彩な活用のアイデアが膨らんでいた。

さらに、この宝石専用スキャナーのほか、天然ダイヤとラボグロウンダイヤをスクリーニングできるコンパクトで持ち運び可能な判定機「Dia True mobile」や、宝石のガードルに文字やロゴを微細刻印できる宝石用レーザマーカー「Gem Scribe」など、宝石関連製品をはじめ、様々な加工機器を取り扱っていた。

基準厳しい海外に対応するパッケージ

世界に対応する受け継がれた技術

「箱」のプロフェッショナル 三協

1902年（明治35年）に、装身具のケースを作ることから始まった業界最古の歴史を誇る㈱三協（東京都荒川区、小澤勝信社長）は、これまでの時代の背景や社会ニーズに合わせて、顧客の求める箱をカタチにしてきた。

ここ数年でも、年間800万個以上の箱を生産。国内や海外の協力工場と連携し、納期、品質、価格面などを含めオリジナルから既製品まで提案できるのは、受け継がれた100年以上の経験からだ。宝飾・時計用のケース・ディスプレイはもちろん、文具用ツールなど業界別に用意。小ロットからでも対応する。

変化する世界に焦点を合わせて適応する能力は、紙、布、レザー、木、プラスチック、金属など様々なパーツによって作られている「箱」を、それぞれの工場と連携し1つの「箱」を作りあげるプロフェッショナルだからこそできる技。革新的で創造的な「クリエイト、クオリティ、フットワーク」をモットーに、顧客の商品の売り上げに少しでも貢献できる箱作りを目指して、これからも、さらに時代に合わせて新たな素材、加工、設計、生産体制に取り組んでいく。

IJTではペーパーボックスやベーシックケース、ブライダル、ポーチなど多彩な用途で活躍するケースなどをブース半分で紹介したほか、もう片方の半分で紹介した未来のために価値あるパッケージに注目が集まった。

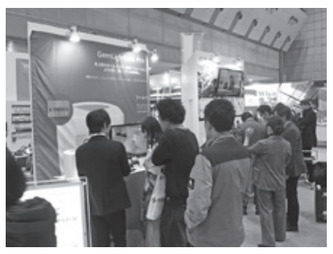
未来のために価値あるパッケージとは、持続可能なパッケージのことで、大手や高級ブランドを扱う企業は海外にも輸出するため、パッケージの素材のみでなく接着などに使われる材料などに対しても注意しなければ輸出はできない。全てにおいてクリアしなければならず、三協では世界的な高まりに合わせて海外に輸出可能なシリーズを展開している。環境にやさしい材料を使いながらも顧客のブランドの美学を高める製品作りに力を入れている。

CT スキャン使用
天女、花珠、鑑別書
※天女、ロイヤル天女は日本宝石科学協会で商標登録されています
日本真珠学術協会
〒110-0005 東京都台東区上野 5-22-1 井上ビル4F
TEL:03-3836-2507 FAX:03-3836-2689

変化する時代にツールによる効率化を推進

職人などに向けた新ブランドも登場

SUZUHO



鈴峯は、IJTにて変化する時代に合わせた様々なツール（機械や道具）を活かした仕事を効率化させる方法を積極的に提案した。

原型製作に不可欠となったCADにおいても、自社に合う機能かどうかを判断。問題があっても素早く解決機能を紹介したり、CAD経験者さえも気づかない便利な機能も提案した。

また地金高騰に合わせ地金の純度を測る道具や、EC販売に適した撮影機器、リサイクルやSDGsに向けた買取商品のクリーニング方法や解体方法など店頭に並べるまでの効率の良い機材も提案した。

さらに、育たない職人と増加するクラフトマンに対して、どちらでも活用できる職人が考案した新しい工具ブランドを立ち上げ発表。こちらも効率につながる機械と工具の提案となった。

優れた講師が登場し、ためになると毎回好評の体験会は、原型製作の基本が学べるWAXメイキングをはじめ、目からウロコの新機能を教えてくれるCADデザイン、学べる上にドッグタグの特典が付いた洋彫り体験、GRS公認のエングレーバーによるデモンストレーションなど、体験面積を前回よりも広げ、多くが集まり好評だった。

これぞ甲府メッキ!!

同社のみのプロテクトからカラフル樹脂まで

アートグロウ

㈲アートグロウ（山梨県甲府市、池田臣人社長）は、キャドデータ作成、石留、磨きなど豊富なジュエリーの制作を手がけながらも、仕事つながりの縁からジュエリー制作の最後の工程「責任あるメッキ」に事業を一本化。それまでのジュエリー制作の25年の経験を活かしながら『これぞ甲府メッキ』を合言葉に、ハイクオリティにこだわったメッキ加工屋として大手企業から中小企業まで対応。甲府に本社を置きながら優れた技術を広めようと、現在は御徒町にも事務所を構え事業を展開している。

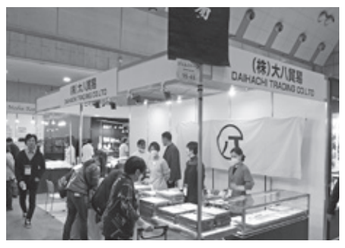
甲府メッキという名称からメッキ加工だけと思われがちだが、国内では同社のみが取り扱う貴金属皮膜用電気式保護処理による変色防止コーティングの「プロテクト」技術を有している。

また、メッキとは一味違うカラーデザインによって商品の幅を広げることを可能にする「カラフル樹脂」を扱っている。色の種類は無限大に有り、好みの位置に好きな色で遊び心溢れるデザインを可能とすることで人気を呼んでいる。

さらに素材のわからない商品へのX線検査も行っており、地金含有の確認からメッキ厚の確認までなんでも測定できる。

業界が好きで生きている

宝石の輸出入卸、大八貿易



ダイヤ、貴石、半貴石の輸出入卸を営む㈱大八貿易（東京都台東区、榎本大八社長）が、IJTに初出展した。

榎本社長は老舗の宝石商社に勤めて20年が経った、2021年に独立し大八貿易を立ち上げた。事業内容もその老舗の宝石商社と同じ宝石の輸出入卸であるが、独立を応援してもらっている。

榎本社長に話を聞くと、IJTに来たのも数年ぶり。独立して2年が経ち、IJTでどうなるか不安だったが、久しぶりに会えた多くの顧客に仕入れてもらい感謝しているとのこと。

また「宝石を知らぬまま老舗の宝石商に入社した頃は一つ一つ宝石の名前を覚える日々だった自分が、こうしてIJTに出展しているのは不思議な感覚です。20年の中で経験した多くの失敗や珍道中を経て語り尽くせないたくさんの旅の中で学んだことは、『相手にとって信頼のおける人間になること』が一番大切なことだと皆さんから教わった」と教えてくれた。

さらに「バイヤーとしてはある程度の値踏みや際どい交渉ももちろん大切だとしているが、何よりも「この人とずっと仕事がしたい」「楽しい」と感じてもらえることが一番の喜びです」と語った。

独立直後は在庫は言うほど多くなかったとしたが、2年経った現在はその頃より20倍増え、さらなる経験を積んでいる。榎本社長は「業界が好きで生きています」と話しているので、興味ある人は一度大八貿易に訪れてもらいたい。きっと楽しいに違いない。

▼**大八貿易**＝東京都台東区台東3-38-5 津多屋第二ビル2階。TEL:03-6284-4925。

世界初のAI搭載合成ダイヤ判定器を披露したアルファーミラージュ

上質のモノやサービスを創造するプロに役立つ機材を提供し、それらの機能と役割をサポートするアルファーミラージュ㈱（大阪市都島区、近藤貞憲社長）は、IJTに世界初のAI搭載合成ダイヤモンド判定器「DIASYNTH」を展示し、注目を浴びた。

このほか、貴金属だけでなく宝石、時計の真鷹判定に適した高精度・高機能な蛍光X線分析装置EDX（SHIMADZU）、金銀、プラチナ、パラジウム鑑定・分析の必需品となる豊富な実績を持つ貴金属X線分析計VANTA GX、感動の臨場感を体験できる超高精細のフルオートデジタルマイクロスコープHRX-01など注目の商品が一堂に並んだ。